

在土左郷之西、中世分東西二村、西謂小高坂、東謂大高坂、大高坂今城府也、慶長七年、一豊君移浦戶城於此地、號河中山、寛永年中、忠義君又改高知山、

〔土佐州郡志 土佐郡〕高知舊名國澤、後更、高知、東西三十一町五十間、南北八町十間、諸士第宅縱橫八町餘、其餘市井分城、東西市中戶凡三千六十七

府城 國君之常居也、山舊名大高坂、往昔大高坂長門守者據守此山、慶長中、一豊公始營修城隍、更名河中山、殿宇森嚴、規模壯麗、允爲億萬年之基、

〔南路志 土佐郡〕高知 地千二百五十六石二斗三升六合、土屋敷、商家共町中、暨町東西道、範三里二八丁、南北

一豊公、慶長六年辛丑六月、國澤之内、大高坂山を城地ニ被定、同八年癸卯、御本丸御成就ニ付、御城名可奉、附眞如寺在川和尚江、被仰付處、南北之川中之依爲城河、中と被奉附、慶長十五年庚戌年迄、度々南北之川洪水ニ付、再忠義公地鎮、五臺山空鏡上人江、被仰付、城地高知山と空鏡上人被奉附、

〔平治物語 三〕賴朝遠流事附盛安夢合事

今一人ノ男子ハ、駿河國ニ香貫ト云者擲出テ平家ヘ奉レバ、希義ト云名ヲ付テ、土佐國氣良ト云所ヘ被流テ御座ケレバ、氣良冠者トゾ申ケル、

〔長門本平家物語 四〕丹波少將は、備中のくに妹尾の湊ゆく井といふ所より御船に召して、波路はるかにこぎうかぶ、略 中 高く聳えたる遠山のはるかに見えければ、あれはいづくぞと少將問給へば、土佐のはた、足摺みさきと申ければ、略 下

〔源平盛衰記 十三〕熊野新宮軍事

所詮東國ノ勢ノ馳上ラヌ前ニ、宮仁王ヲ取奉テ、土佐ノ畑ヘ流シ奉ルベシトゾ被定ケル、

〔南海通紀 十二〕東方野根城陷記